

経済 TOPICS

No. 233

(2024年7月24日)

景気ウォッチング（要旨）

日本 … 個人消費や設備投資が横這い圏内の動きのなか、生産が持ち直しているものの、輸出が弱めの動きを続けていることから、全体としては弱い回復の動きが続いている。消費者物価は、横這い圏内の動きとなっている。この間、自動車の認証不正問題、海外での軍事紛争の長期化、中国経済の停滞、米国大統領選など、先行き不透明感の強い状態が続いている。

米国 … 生産、個人消費、設備投資が底堅く推移していることから、全体としては緩やかな回復が続いている。この間、中古住宅販売は低調で、失業率はごく緩やかに上昇し、消費者物価は前年比上昇幅が緩やかに縮小している。

（参考）物価動向

〈日本〉 生鮮食品を除く食料価格が鎮静化に向かうなか、エネルギー価格が上昇したことから、横這い圏内の動きとなっている。この間、サービス価格の上昇圧力と価格転嫁の動きは続いている。

〈米国〉 人件費の上昇に伴うサービス価格の上昇圧力は続いているものの、食料及びエネルギーを除く商品価格が小幅ながら下落していることから、全体としては前年比上昇幅が緩やかに縮小している。

（注）本稿は、7月18日時点で取得可能なデータに基づき作成。



京都フィナンシャルグループ

京都総研コンサルティング